

光星 16強ならず

全国高校バスケット第3日

岐阜女などが8強入りした。
(若松有希)

バスケットボールの全国高校選手権(ウインタースタジアム)は第3日の25日、東京体育館で男女の2、3回戦を行った。2回戦に臨んだ男子の本県代表・八戸学院光星は、初戦を45点差で勝ち上がった京都市精華学(愛知)、前回準優勝の札幌山の手(北海道)、

一進一退の激しい攻防を繰り広げたものの一歩及ばず、65-73で敗れた。女子は3回戦が行われ、2連覇を狙う全国高校総体覇者の京都精華学、2大会ぶりの優勝に挑む総体2位の桜花学園



八学光星は「格上」と見ていた京都市精華学園とがつぶり四つ、全国の強豪と十分に戦える力を証明した。

初出場とはいえ相手は2倍超の留学生2人を擁し、先発5人の平均身長は186センチと八学光星を約6センチ上回る。個々のスキルも高いと前評判は高かった。

だが八学光星は留学生を2人、3人で連携して厳しく囲い込む攻めのディフェンスが効果を発揮。今夏から練習試合を通じた地道な練習が実を

強豪と互角の戦い

結んだ。

50-50の同点で迎えた第4クォーター。いったん離された八学光星は、成田の3点シュートで残り40秒、2点差まで追いつける粘りを見せながらも反撃はこぼれていた。

佐々木コーチは悔しさを押し殺しながら「3年生の頑張りは誇りに思う。(最後まで)誰も下を向いていない選手はいなかったし、諦める場面もなかった。チームの持ち味を出せた」と胸を張った。30人を超える部員を引っ張ってきた主将上山

「持ち味出せた」収穫も

【八学光星―京都精華学園】第3クォーター、八学光星の成田がレイアップシュートを決め47-48とする―東京体育館

は「チーム全員で勝ちに行くぞ、という戦いはできた」と前を向いた。チームの歴史を塗り替える、全国大会3回戦進出は逃したものの、この日は2年越田の動きがさえるなど収穫も大きかった。チームトップの16点を挙げた成田は試合後、次を担う1、2年の飛躍を願い、力を込めた。「徹底して守り、徹底して攻める」(本間善幸)